

麻しん（はしか）の注意喚起 ～麻しん患者の発生について～

麻しんウイルス陽性患者の接触者である家族の検査を実施したところ、令和7年12月10日（水）麻しんウイルス陽性であることが判明しましたのでお知らせします。

報道に際しては、患者のプライバシーの保護及び施設の風評被害にならないよう、十分配慮していただきますようお願いいたします。

1 届出患者の状況

【患者1】届出日：12月9日

1歳、男児 症状：発熱、発疹

【患者2】届出日：12月10日

30歳代、男性（患者1の家族） 症状：発熱、咽頭痛、発疹

2 経過

12月1日（月）患者1が発熱

4日（木）発疹出現

6日（土）市内医療機関（病院）を受診し入院

9日（火）麻しん疑いで市保健所に届出、接触者調査のなかで、患者1の発症以前に、発熱、咽頭痛、発疹の症状を呈した家族（患者2）がいることが判明

10日（水）患者1の麻しんウイルス陽性を確定、同日患者2の麻しんウイルス陽性が判明

3 その他

- ・感染源は患者2から患者1に家族内感染、患者2については国内（県外）での感染と推定
- ・症状はいずれも軽快
- ・接触者については調査中

4 注意喚起の内容

- ・麻しん患者と接触した場合は、潜伏期間を考慮し、接触後21日間の健康観察が必要です。
- ・麻しんは感染力がきわめて強い感染症で、典型的な症状として、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻汁といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いたあと、39度以上の高熱と発疹が出現します。
- ・麻しんは感染力が強く、空気感染もするため、手洗い、マスクのみでは予防することができません。



- ・予防接種が最も有効な予防方法であり、麻しんの定期予防接種は、1歳児、就学前の年長児の2回接種です。対象者はできるだけ早めに受けるようにしましょう。
- ・麻しんの予防接種歴がない方、麻しんに罹ったことのない方が、12月27日までの間に、発熱、気道症状(咽頭痛、咳等)に続き、発疹が出現した場合は、医療機関へご相談ください。

【問い合わせ先】

岡山市 保健管理課 宮井・坂上 直通086-803-1251 内線5750



ま 麻しん(はしか)の患者さんと 接した方へ



- ・麻しん(はしか)は、感染力が強く、予防接種を受けていないと多くの人がかかる病気です。そのため、一緒に生活しているご家族や、同僚、同級生など患者さんと接した方は麻しんにかかる可能性があります。
- ・麻しんは重い症状を引き起こすこともあり、注意が必要です。
- ・麻しんという病気の特徴を知っていただき、体調など以下のような点にご注意ください。

1. 麻しんはどんな病気？

患者さんと接したからといってすぐに発病するというわけではありません。

- ・潜伏期間は10～12日です。
- ・初期症状(はじめの2～4日)は発熱と咳、鼻水、目の充血などの風邪と同じ症状です。その後いったん熱が下がり(1～2日)、再び熱が出ると同時に全身に発疹がでます。さらに4～5日高熱が続きます。
- ・周りの人に感染させる期間は発熱が始まる1日前から解熱後3日です。



2. 麻しんの患者さんと接したらどうするの？

(1) 麻しんの予防接種歴を確認しましょう

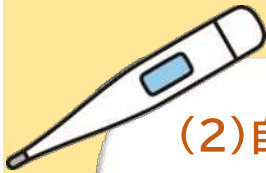
- ・可能であれば、親子手帳(母子手帳)で麻しんの予防接種をしたかどうかを確認してください。
- ・麻しんの予防接種は以下のワクチンに含まれています。

麻しん・風しん・おたふく風邪ワクチン(MMR)
麻しん・風しんワクチン(MR)
麻しんワクチン

*上記の予防接種は昭和53年から始まりました。



- ・昭和45年以前に生まれた方は幼少期にほとんどの方がかかっています。一度かかった方が再度かかる心配はありません。



(2)自分自身の健康観察をしましょう

- ・体温を測定しましょう。もし体温が37.5度以上になった場合は、外出を控えて医療機関に相談してください。
 - ・体温の測定は、麻しん患者さんと接触してから3週間続けてください。
- * (1)で予防接種歴があった人も、1回の予防接種で免疫がつかない場合や、免疫が弱くなっている場合もありますので、健康観察することをお勧めします。

(3)熱が出て医療機関を受診する際には注意を

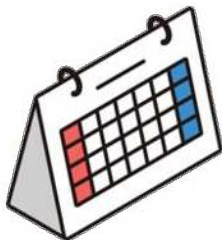
- ・受診する際は、事前に「麻しんの患者さんと接触があった。」ことを必ず電話で相談して、受診の方法を確認してください。
- * 病院の待合室等で人にうつしてしまう危険があります。



(4)麻しんと診断された場合は

- ・熱が下がってから3日間経過するまでは、外出(通勤・通学等)はお控えください。

3.予防するには？



- ・外出後の手洗いは麻しんの予防にも有効です。
- ・栄養バランスのとれた食事、適度な運動、休養で体力をつけましょう。
- ・咳がある病気の時には、咳エチケットを心がけましょう。



4.予防接種は？

- ・麻しんの患者さんと接触した後、早期(3日以内)の予防接種は発病や重症化予防に効果があると言われています。麻しんにかかったことがなく、麻しんの予防接種が未接種の方には接種をお勧めします。主治医とご相談ください。
 - ・麻しん患者さんと接してから時間が経っている場合、接種をしても発病を予防する効果が得られない場合があります。しかし、予防接種をしておくことで、今後の感染予防に効果があります。
- *ただし、この場合の予防接種は有料です。接種行う医師から副作用等に関する説明を受け、よく納得した上で接種してください。

【問い合わせ先】

岡山市保健所感染症対策課(岡山市北区鹿田町1丁目1-1)
TEL:(086)803-1290 FAX:(086)803-1713

